



ら しん ばん 羅 針 盤

2022年 1月 7日 第19号

魚住東中学校 校長室から

予定通り よりも大切なこと



校長 赤松 弘一

『踏切で安全確認を行っておりましたため、電車の到着が8分遅れましたことをお詫び申し上げます』
私が通勤で利用する駅で聞こえてきた構内放送です。
「自分は時間通り駅に着いたのに、後の予定が遅れてしまう」私はせっちな性格なので、予定通りに電車が来ないことに少し腹を立てていました。やがてそんなことは忘れて一日をいつものように過ごし、列車の遅れが影響することは何もありませんでした。

日本の列車の運行は他の国から見ると、信じられないくらい正確だといいます。一方「30分や1時間の遅れは当たり前、予定通りに電車が来ることなどめったにない」という国もあり、人々もそのことで腹を立てたりしないそうです。私たちは時間通りに行動することを、お互いに強く求め合う社会に生きています。約束を守ることは、人として大切なことです。遅刻ばかりする人は、当然仕事をする上でも信頼されず、解雇されてしまいます。時間を守る人は他のことにおいても信頼できると感じます。しかし、この時間を正確にという思いは時に息苦しさを感じさせます。「自分は守ったのだから、あなたも守って当然だ。あなたが遅刻したおかげで私の時間が無駄になった。どうしてくれるのだ。」ゆとりのない気持ちが様々な摩擦を引き起こします。それを避けるために、ますます私たちは約束通りにしようと時間に追われ、他の人にもそれを要求します。

解剖学者の養老猛先生が著書の中で、『何でも予定通りに行くことを求める人には「自分の葬式の日は何日か知ってる?」と聞く』と書かれていて面白いと思いました。

話を戻しますが、電車はなぜ遅れたのか、踏切での安全確認を行ったということでした。踏切で高齢者や体の不自由な人が動けなくなり危険な状態になっていたのかもしれない。または信号が踏切内の異常を伝えたのかもしれない。「予定通り、よりも優先すべきことがある。自分が見ていないところに真実がある」電車が最優先すべきは安全な運行です。時間を守ることを優先して安全確認を怠った結果、重大な事故になったとき、私たちは安全より時間を優先した電車を認めますか。どんなに遅れを責められても、完全な安全が確保されなければ電車を進めない。私たちはそんな電車だから信頼し安心して乗れるのではないのでしょうか。

人にはそれぞれ違った考えや生き方があります。「なぜ自分とは違うのか、自分が正しく相手が間違っている」この思いを互いに譲らないならば、人同士は分かり合えることはありません。それが高じて国や民族間で紛争が起きています。

私たちは自分以外の人の立場になって考え、目先のことにとらわれずに、そのずっと遠くにある真実を見通す目をもつことが大切だと思います。

2022年、新しい年が始まりました。何気なく時間は過ぎていきますが、1年経てば1年分の成長があるはず。「大切なこと、正しいこと」と自分が思っていることを今一度見つめ直すことから、この1年を始めたいと思います。



東中 4階から見る播磨灘の落日